

昭和三十一年三月二十四日招集
第一回定例会(第七日)會議錄

昭和三十一年館山市議会第一回定例会会議録

一、昭和三十一年三月二十四日午前十時館山市議会第一回定例会を千葉銀行北条支店会議室に招集する。

議長（石井潔君）本日の本席議員数三十二名。こゝより第一回定例会第七日目、会議を開きます。

議長（石井潔君）ついで本日、議事につきまゝお諮りいたします。ただ今まで議長の手許まで送付されております案件は議案第二十四号および議案第二十七号ないし第三十一号並びに監査報告一件、陳情書一件でありますから、これを本日、会議日程に追加することに御異議ございませんか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。ただいま配付いたします。よて、本日、議事日程はお手許より日程う

とおりであります。よろしくお願いいたします。

議長（石井潔君）それでは日程の順序に従いまして、日程第一報告第四号、昭和三十年度三月例月検査報告。

（書記朗読）

監査委員（関武夫君）三月十三日、十四日、十五日と議会に本会議がつづきました。三月の例月検査は、三月十六日に実施いたしました。この結果につきまして報告申し上げます。まず、一般会計におきまして、市税の収入が八百四十二万九千円ありましたが、この内訳が主なるものは、市民税が百六十万円、固定資産税が五百十六万円、たばこ消費税が一月分が八十八万八千六百元、電気ガス税が七十一万円等でございます。税外収入が一千十万円の内訳は、第四中学の市債が四百五十万円、教育寄付金が二百四十万円、国庫から支出金が百七十万円等が主なるもの

でございます。

歳入につきましては、この間一千六百月ほど支出されておりますが、教育費がこううち、四百五十万月、田中う改築費として百万月、館山高校う商業実習室う百四十二万九千月等が主なるものでございます。歳入歳出差引きました、一千四百六十二万四千九百三十月、歳入不足でございます。一時借入金う一千九百二十三万七千七百八十月、内訳は、資金運用部から三百万月、千葉銀行から一千万月、恩給組合から六百万月、市有物件の災害共済組合から二十三万七千七百八十月でございます。なお、一時借入金う下に雑部金繰入分として九百九十月記録してありますが、それは、雑部金へ入るべき九百九十月が誤まって一般会計へ入ってあったものでございます。会計において、それに気が付きました月が替わりまして、すく

に訂正されております。現金保管高は四百六十二万三千八百四十七円でございます。

市税の欄におきまして、欠損額が二百九十七万六千五百円、数字が記録されております。前年末と比較いたしますと

二月中に七十二万二千八百二十二円増加しておりますわけでございますが、これは、毎回欠損が計上されますと、同様の性質のものでございまして、二十四年度以前よりもござい

ます。市税の収入未済額は六千九百九十四万二千三百

九十七円でございしますが、二月末は、すでに市民税も固定資産税もすべて納期が到来いたしまして、わずかに市民税特徴分が約七十七万円ほど、三月分も残っておりますので、正味滞納額は

約六千九百七十七万円という数字が現われるかとございます。以上で一般会計を終りまして、公益質屋と最後に

豊磨診療所につきましては、この表によって御了承願います。
国民健康保険の特別会計でございますが、収入未済額におきま
して、九百三十二万五千三百三十三円という数字になっております。

第四期の調定が行われまして、まだ納期が完全に到来して
おりませんので、第四期分のうち、すでに納められたものを
除きまして、正味の未済額を計算してみますと、約六
百四十八万円でございます。前年度が二百九十万円、繰越
分が三百二十四万円でございます。以上で監査報告の説明
を終ります。

議長（石井潔君）議事進行上申し上げます。報告第四号は
おおむね印刷物の書籍類として御検討願います。後刻
重要案件を控えておりますので、さよう御了承願いた
いと存じます。

三十四番（嶋貫杜作君）市税の収入が九千四百二十七万五千五百

かう前年度調定のかと滞納分とを區別した表があります。

一 なるひと。

。^{第二}事務課長(山口実君) 中視の歳入におきまゝして収入額合計は

九千二十七万五千円になっております。それで前年度の繰り

越しを區別ですが、帳簿では一覽がすぐにはおたないんでご

ざいます。うちほど報告いたしたいと思ひます。

。二十三番(高橋文治君) にだいま議長さんのお話では重要な問題が控えておるから質問は遠慮しろというんてすか。

。議長(石井潔君) そういう意味ではありませんが、この書類を

上でおわかりになはば進めていた方がたいという意味で

ございます。別に質疑を抑える意味じゃございません。

。二十三番(高橋文治君) 市長さんに御意見を承りないと思ひます。

それは合併後におきまゝして、六カ村側で市民が不平不

満ち唱えておりますのは、税が大分合併後、高くなったという問題がひとつ。それから、教育費の方、需用費が非常に少ない。これは、不平といえますか、不満といえますか。唱えているわけで、市民税の方は、大して負担を感じないでございしますが、国民健康保険の保険料が非常に高い。昨年より約三倍にも上がっているのは、もっとも大きな原因だと思っております。三十年度は、——三百万円であつて、昨年は当初予算二百万円。なお、追加で五十万。本年は、百万、繰り入れてありますので、従いまして、この繰り入れが合併前と比較しますと、熊山市は、加入者が多くなりまいなうで、それと比較しますと、五百万近くも計上——なくては、均衡がとれないと思つてゐる。それが、本年百万ございますので、従つてそのあとは——当然でございます。その關係で高くなつたと思ひますので、

昨年よりとくに保険料が五百万ばかり増額いたしました
 んですが、こゝは——ありますうで、もう少し繰り入
 れを多くする。増納を整理して、なんとか、もっと保険料
 を安くするお考えはございませうか。ただいま申
 し上げたとおり、合併して税金が安くなるどころか、ばかに
 高くなったという不公平が非常にあるわけなんです。

その高いというのは、この間、ちと話しまゝだが、財産がない
 家財もひとつもない。たゞに一人、世帯主が市民税の
 要するに、均等割は四百円。なお、被保険者が一人
 ありが二百四十円。一世帯が四百八十円。一人でもう一千
 百二十円納める。市税の方は、わずかに均等割、四百円
 しか納めていない。一人、一世帯では三倍にもなっている。
 それで高い高いというて、るわけなんです。

・市長（田村利男君）ただいま、二十三番さん、御質問、

趣旨に對して、お答えいたします。合併後、非常に高くなつた
ところであつて、非常に本人から非難と申しますか、不平があ
るというふうなことでございまして、そのために繰入金を従
来例でいえば、百万では足りないでもっと相当工夫すべ
うまいかというふうな御意見についてお答えいたします。
こゝ点につきまゝでは、先般、保険運営委員会としま
も議論が出たのでございしますが、一応私も、建前と
いたしまして、本年度予算には、百万円という繰入金
を見込んでおられますが、もちろん、予算があれ
ば、もう少し考え得る点もあると思ひますが、一応建前
といたしまして、相互採算制を基本に考えますときに、
一定率による負担をしていただいて足りない場合に、
繰入金をもって、その穴埋めをするという建前にいた
しまして、がために、一応百万円という予算を計上したん

でございしますが、今後、運営に当りまして、相当未収な
んかがある、というても、運営がつかないという場合には、
当然、こゝは、市の仕事でございしますから、繰入金も、最悪
の場合には、増額せざるを得ないかとも思いますが、一応
現年度、予算、う全体を揃じまして、財源の許す範
囲内において、百万円という金額を一応考え込んでござ
いまして、将来、どうしても、独立採算制が不調に終ると
いうときには、また考えらるる問題じやないかと思っています。
。二十三番（高橋文治君）保険課長さんにお伺いします。

昨年は、一千三百六十万、保険料であった。本年は、二千
三百三十三万と九百七十三万、増になつておりますが、

こゝは、熊山市が

当然、まして、参ります。

で、ふるうのは、当然、かもわかりませんが、昨年は、六十万で
運営上、非常に困つたんでございします。うが、なお、余裕が

あつたんでございます。

・保険課長（唐沢貞太郎君）昨年といひますと、三十年度（「三十年度でございます」と呼ぶ者あり）現在、収納率でいつた場合には、約一カ月分百三十三万支払——じゃなからうかと——いう見込めでございます。それにつきま——では——方面に金カをまけて、

・二十三番（高橋文治君）

・保険課長（唐沢貞太郎君）現在、収納率で行く場合には、そのくらい穴があくんじゃなからうかと想像されるわけでございます。

・議長（石井深君）他に御質疑ございせんか、なければ、日程第二に移ります。

（書記朗読）

・議長（石井深君）お諮りいたします。日程第二本陳情書に關しましては、先般来、熱心な御審議をいただいております。

まーだが、予算案を示す通り、補助金に關しましては、一応移轉的の経費として削除されておりますが、ここ、この近い機会におきまして再びこの問題が持ち上げられるときが必ずあると存じますので、それまで本陳情書の審議を保留いたしたいと存じますが、それに対して御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

二十七番(伊勢仙之助君) この問題につきまして、本会議ならびに委員会におきまして、移轉的経費をこんごどうするかという問題に市長の方から、これに対する諮問機關がもうなもうを設置して、市政の月報を国報うというふうな発言も出ておりますが、その時期の問題ですが、私を考えると、一では、議會で正式な財政再建特別委員というふうなものを、つくって正式な機關として急速に、ごきかば、五月以降にな

らない前にそういうものをつくって移転的経費の問題を審議した方がいいではないかというふうな考えを持つておりますが、この点について市長として議会でもし、そういう正式な特別委員会をつくつてゐるということに對してどうやうにお考えになつておりますか。市長さんのお考えを承りたいと思います。

市長(田村利男君)　これはまだどういふことになるかわかりませんが、財政再建特別委員というふうな正式のものをごいますか。誠に結構な御意見でございます。市側からお願いしたいというわけであります。四月早々あるいは五月――秘書課あたりから見解がはっきりしないかと存じますので、折角でも、開店休業というふうなことになるかも知れませんが、一か一今議会において、そういう委員会を形成して、発足していただいても結構

構でございすが、そういう事務を取り扱うものがないが、開店休業中というふうなことになるでもなければ、つぎの臨時議会を開いて結成だけの煩を避ける意味なら、ただいまこしらえてもらつても結構です。

三十七番(伊勢仙之助君) 私人懸念するところは、おそらくいまから四月にかけて、移転的経費の復活要求が出てくると思ひます。そのときにおきまゝ、その問題を一カ月ないし二カ月保留りまゝで据置いて審議——懸念——まいだが

今、市長さん、答弁で——はい、というふうなことを

聞きまゝ、たゞで早急につくるというところに御異議はないという市長さん、考えで、一応了承します。

議長(石井潔君) 他に御質疑ございせんか。

三十四番(嶋貴杜作君) この問題でありますか、この問題をいつまで保留なさるお考えですか。

きり当局がよめたという――

つて勲業を以て語るにかゝるべきだと思ひます。

長（石井潔君）承知いたしました。ーばらく休憩いたします。

てお願いいたします。

それらのもっと切実な問題がありますから、ここで陳情書

が先に出てゐたから、その方を先にするというのではなしに、農業の方面でそういう切実な問題もあらんで、近いうちにいまの委員会、そういうものをおつくりになつて、その上で御審議いただきたいと思ひます。

ニ十一番(松本藤太郎君) 私は、この陳情書が、一応本会議として、は、採択をする。そうして、その内容に、ついては、ニ十七番議員から、市長に尋ねまゝして、市長もつくりたいと、審議会とか、委員会だからわかりませんが、そういうものも、手に渡すということにしたいと思ひます。

ニ十七番(伊勢仙之助君) 私もニ十一番議員と同意見であります。なぜかといひますと、特別委員会その他、本会議で移転的経費をどうしようにするかという、移転的経費は

なるべく、—— 方向に持て行かうという、一つ、結論が出ております。その方法でございまして、これも一応採

扱いて金を出すか出さないかについては、審議会よりようなものに
任せてやると、採扱をいたから早くやるとか、遅くやるとか、そう
いう考えではなくて、重要なり度合を産業経費費、その他
各移転的経費と同時にこれを審議して行く、そういうウエイ
トによって、そういう考え方の上に立って一応、ここで採扱しても
差支えないんじゃないかと思ひます。

十九番(石井平次君) 本案に對しましては、日程に提案された意
図を取んでやはり採り上げる方がよろしいと思ひます。

十六番(脇田順一君) 審議会より性格ははつきりとしてませんが、審
議会はすべて陳情書を審議するんですか。

二十七番(伊勢仙之助君) 私が一番最初にこの審議会を出しま
したが、私より早く考えた方としては、陳情書があるなしとい
うのは、全然考えていきませんが、あればあつたで、陳情書に
よつて、具体的な内容がわかめるといふことでありま

て、陳情書を採択したから、その移転的経費の復元、順位が早いんだとか、遅いんだとかいう解釈は全然とりません。で、市の全般の移転的経費を総括して陳情書があるなしにかかわらず、こういうふうな考え方でただ陳情書があると、——場合にその内容は全部わかるという点だけで。

○三十二番(望月暉作殿) 私は移転的経費の点につきましては、移転的経費もたまやけたいというところは、ないわけでありまして、——それに対する市長は、いろいろ点において政治的な折衝をして、——いうのは、本会議でのお話でございますが、——従って本陳情書が、出ました以上、これは、当然採択すべき筋合いです。あると思います。私は採択に賛成いたします。

○二十九番(黒川佐太郎君) 私は、この問題は採択することに賛成

いたします。陳情書。

審議会が態度を決

するとうとうな審議会ではないはずでありましてこの採
択することによつて、脇田さんが言われるそれ以上重要な案
件が出た場合には——脇田さん——
いうふうに私考えております。採択さんことを申し
述べます。

十七番(鈴木市蔵君)この陳情書を採択して——またうここにおい
て移動的経費という問題でこの予算が——場合
はちつとこれはどうかと思うんですが、私は一応保留に——
本年度の予算がまだ審議中である。きょう審議が終つ
て——もしも審議会ができたならばそれを——
いいじやないかと思うんですが、それは専門的な事
務局長さんにお伺いします。

事務局長(高梨清一君)この席から失礼いたします。陳情書

が提出になりますれば、採択か不採択かを決定いたしまして、採択されたものはその所属の關係の庁に送付するという
ことになっております。

十七番（鈴木市蔵君）ただ移転的経費を認めるとか、認めないかという
現在の――

その場合にそれは認められなかつた場合に我々はこれを採択した場合にどう――

事務局長（高梨清君）その点につきましては、議会は請願、陳情書の趣旨に賛成しまして、そしてこれを所属の庁に送付いたします。所属の庁において賅源その他関係の御趣旨に添うことができるとか、できないとかという見解は、その所属の庁の見解になります。議会は議会でもって決定したものを処理すべいいと思っております。

三十五番（小沢光義君）審議会とか何とかまだできていないものをこゝは市長さんがこゝらえてもらいたいという言明はあ

リまゝだが、そういう問題に結びつけ、素直に受け取つて、そして陳情書が議案として提出されたが、議会としては、いま局長の言われたとおり、採択か不採択か、こういうことを決める。そして、市長さんに送付すると、市長さんは、市長さんの方で審議会をつくらせてかけるとか、そういう考えでもつて、この陳情書は処理したらいんじゃないかと思ひます。

私も考えとまゝでも、この陳情書が移転的経費になるか、あるいはどういふ種目になるか、そういう点はわかりませんが、とにかく陳情書がまた以上は、こういう種目に対しては、議会として、どういふ方法をとるか、措置をとるか、ということも考えますと、一応これは、きつう採択をして市長さんの方へ回付する。こういうことの方が議会としてはいいんじゃないかと思ひます。

・議長（石井潔君）お諮りいたします。採択せよという御意見見

が大分多いようでございますので、採択ということにいたしました
と思います。御異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議ないものと認めます。よって本陳情
書は採択して市長に送付することにしたと思います。
議長(石井潔君) ついて日程第三、議案第二十回号を上程いたします。

(書記朗読)

(「ミマスコットは高崎令国に交付するものとござ
います。同地域は、現在十五名が令国員を保持しておりますが、自動車
ポンプ一台を有しております。三十一年度に同地域に令遺所が
できますので、これができました場合には、現在保持しております
自動車ポンプと

同地域は御承知のとおり、年間を隔じまして非常に消防が

ますので、今日その特殊性に鑑みまして自動車

ポンプを汲上するかわりに、エスコート一台を交付して火災予防に對
処しようとするものでございす。

議長（石井潔君）本案に對して御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よつて討論省略決定さ
れまう。

議長（石井潔君）ついで日程第四、議案第二十七号を上程いたします。

（書記朗読）

（「この土地は那古の海岸にございまして――

ほか四十九石の共有地になつておるものでございす。――かし、現在
におきましては、當時の共有者があるものは死せしあるいは他へ転
出したりいたしまして所在が不明になつておたりして、これを
処分するにも非常に困るという状況にある土地でございす。

三月六日付で館山市に對しまして、現在

も半減して

おります。三十三名から寄付を申し込んで参ったのでござい
ますが、市におきましては、これを現状のままでも收受したいと
考えるのでございます。一カー登記する場合には、いろいろ
それに関連する書類が必要が生ずるのでございますが、目下
ところでは、――

徴収するということとは、困難で
ございまして、これを寄付を受けまいに場合も将来
なんらかの方法によりまして登記ができれば別でござ
います。が、もし書類等が関係で登記ができないと
いうような場合には、こゝまま単に寄付を受けておきたい
というふうに考えるものでございます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○ニナ七番（伊勢仙え助君）こゝ問題について、共有者が全部承
諾していないというような点に登記上の問題が出てくると思いま
すが、こゝのまま受けたとすると、市で管理するという形に

なるわけです。そこでなぜ寄付しなけければならないかという根本的な問題は税金と土地からあがる地代のバランスがとれないという考え方から出てくるんじゃないかと思いますが、御参考までにいま、この土地から税金をどのくらい払って実際に土地からあがる地代はどのくらいで、損得ぐくくらいあるかという点を御参考までに聞きたいと思ひます。

第二点として、寄付を受けても法的の根拠がなんにもなしで受けたとすると困るんで管理を委託されたという形にしたらなければまずいんじゃないかと思ひますが、その点について

（ ） お答えいたします。こゝを寄付するにつきましては、ただいま二十七番議員がおっしゃったように実際は税金が地代に對して重くて現在の共有者には税金の負担がまかなえない。従来はここにあつた木を処分いたしまして税金等をまかなつておつたのでござ

いますが、現在では、それらがなくなりまして結局、維持に困るというのが、寄付の大きな理由でございます。

なお、土地の税金ならびにこれからあがる地代等につきましては、ついこちらで用意をいたしませんで、その関係につきましても、お答えがでないことを遺憾に存じます。なお、現在、寄付を申し込んで参りました三十三名のうち、将来問題が起った場合には、全責任を負うということを言っておりまして、この土地につきましても、将来、いろいろ法律的に研究いたしまして、できる場合には、早く登記したいとこのように考えております。

三十四番（嶋貴社作君）佐民の意思表示がなくて、寄附を受け入れることは、乱暴だと思ひます。それがため税金をまめがかるためにすればなおりますこと、こういう土地は受けない方が一かあるべきだと思ひますが、

ニテ番(伊勢仙之助君)いより問題ですが、嶋貴さんもおっしゃって
るとおり、私は全然受けないという解釈には、考える余地があ
ると思いますが、ただ市で管理するかどうかというような考
え方なら差支えないと思いますが、ただ、土地代が全然野放
しにならないような、実質的には、市で管理すれば固定資産
税は、一応なくなるわけですね。土地代だけがあがるという
ことになるんですが、現在市より立場からみると、固定資
産税は、となくなくなるという面があるんですが、その問題に
ついては、将来この土地の活用方法によってカバーで
きると思いますが、ただ土地が現在どういう収入があ
がっているかという点については、総務課長さんの方でつ
かんでおられないんですか。

市長(田村利男君)家が二軒ばかり建っておりまして、家
賃をとると将来はかえ転売したときに法律上困るので畑

をつくつてゐる人も家をこしらへてゐる人、家賃をとらな
いというような話だつたと思います。それから税金は

二課長……………（休憩願ひます。と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）——ばらく休憩いたします。

議長（石井潔君）再開いたします。

十八番（小沢太助君）日程第四議案第三十五号の件につきまゝて
いろいろ聞いてみますと、なかには、かならずしも金員賛成で
ないというふうなことであると現在、環境の場合には、あるいは
やっかいだから手を切つてしまふという空気もあるかもしれま
せんが、やがて環境が變つてきた場合に現在、不賛成の
人たちは、異議を申し立てをして、これが成立した場合、も
ちろん、市が所有地になるということも保証できないうであ

ります。現在の場合は、こういうやっかいなものは余り市も喜んで受け入れる必要がなからうかと思ひまゝで、本案は、否決すること希望します。

二十番(中村良五君)ただいま、十八番議員のお話は、おそらく那古の共有地の問題だと思ひますが、その共有地は既に故人になった人もありますし、現在生残っている人たち金部の厚意でこれを市に寄付したいという申出をいたしましただけで、それにこの問題につきまゝでは、絶対市に御迷惑をかけるやうなことはないと思ひます。

まゝでせむとも、市の方へ寄付を受け入れるやうお願いしたいと思ひます。ぜひ、どうぞお願いいたします。

非常にやっかい扱いに、してまだあとでなにか問題が起ころうかというなんでありますが、さうなことは、私を知っている範囲内では、絶対ないと思ひます。

（「ないと思いますけれども」と呼ぶ者あり）

ありません。

（「ありません」といつたて」と呼ぶ者あり）

・三十四番（鳴賀杜作君）私はこれを寄付として受け入れることは絶対反対いたします。ただし、市でもって、この問題を適当に善処して解決してほしいと思います。

・一九番（石井平次君）地元議員が大変張り切っておりますが、私はこれをこういうふうに考えたいと思います。

管理を委託されたんだと、こういう気持ちで受け入れても差支えないと思います。なぜならば、管理をして、はじめて権利が生ずるということになります。問題は受け入れることは受けまゝで、いずれ現在や段階においては、三十三名かり申し入れ

私は受け入れてあとは

市の所有地に登記できないというあれがありまゝだが、

それは市執行部の方にお願いたしまして、なんか形に
おいて市が一応引き取っていただきたい。

市長(田村利男君) 鳴貫議員の御意見の全然寄付は反
対であるけれども、市がなんか形で善処するという御希
望でありまして、石井議員の御発言はさらに受け入れ
て、適当なものと、なんというか、方法を考究せよ。こうい
うような御意見だったと思いますが、この見解につきま
して、番外でございしますが、小沢主事が当たって
おりますので、小沢主事の意見を伺わせてよろしく
ございしますか。

() それでは、代りまして、私の方から若干
御説明を加えたいと思っておりますが、この共有者の全員
が、署名できなかったという原因でございしますが、これは相
当代が古い関係上、住所も転々したことでもございまして、

し、さらには、もっと根本的な戸籍が探しても見当らないという人が大多数でございます。そういう関係でこの登記をそのまま放任した場合には、永久に登記ができないという現状でございます。この際、生存者の人たちから申し出てを受け入れて、市で一応寄付の収受をなしまして、管理をいたしたあかつき、いなくなつた人たちが失蹤宣告、その他の法的な手続きも不可能だとなれば、やはり、こうも、市が管理したうちに、おいて時効取得という手続きに行くほかはなかりうかと、そういう関係から議案として、ぜひ可決していただきたいというふうな気持ちでございます。

十六番(脇田順一君) 現在生存者のなかで反対する人ありませんか。

市長(田村利男君) これはありません。

() 生存者として三十三名は全部賛成、調印をいたしまして、寄付を申し出ておりますので反対はございません。

二十番(中村良五君)いろいろ伺いました、三十三名の申出の方が—— なんか入らなくて、—— かるのちに登記所、—— あとの方は土台無理である。我々責任を持つということの申出がありまして、—— は職務上登記するんではなからうかと思ひますが、その点御研究願えませんか。

() いろいろ研究いたしまして、いまのところでは書類等が完備しなれば、他に方法がない。こういうことでございまして、なお、この件につきましては、登記所の方でもなんらかの変更があつたらば、考究してもらつて、こういうふうに依頼してござい

す。

十八番(小沢太助君) 市長は二十五年経つと登記ができるということは、そのいなくなった人とかあるいは死した人たちが権利が二十五年経つと、時効になるうでその意味で

市長(田村利男君) 先ほど二十五年と申し上げましたが、二十年だそうでございます。この件についても護国主事にとくは答弁させます。

主事() 先ほど小沢主事が釈明したと同じことでございますが、二十年経って裁判によって時効取得ができて、市の所有になる。登記ができるということを聞きまして。

() 私はちょっと似通った事件を取扱った経験があるんですが、死んでその人の権利の

時効、無効にする。いわゆるその人、印がなくとも、やめる
ということは、その人がいなくなった事実が確定してから
その人が——その人の権利は消滅しないという
ので失踪届を出して満一カ年、裁判所が失踪届の
——によって、そしてその間において担当裁判所
から異議の申立がなく、そうした場合には、その人が死
したということが証明される。その権利が消滅するとい
うことで、その事件を解決したことがあるんです。

いなくなった人とか、戸籍がつかうないとか、いったような
人たちが権利はいつころ——これを私は
心配するものであります。

十二番(山本 昇君)この問題についていろいろ御意見も
ありまして、一応地元も現在——というこ
ととまた——法的な効果が現われない。

また、将来そういったことが、もし——ゴタゴタ

——いろいろな意見がありますか、

一応ただいま十七番議員から話で職権による登記
 ということも考えられますが、そういったことを、もう
 一ぺん研究するという意味において本案を保留にして
 研究していただきたい。

。二十七番（私と一ヨ一では、一応地えり方たち
 が三十三名、——

こゝ問題を解決してやらなければいけないんだという観点
 に立って一応寄付を受けて、市が実際には管理するよ
 うな形になって、もし三十三名以外の人から異議があ
 ったら、率直に返してやってもいいと思うんです。

現在、そういうふうにお困りになされている人たちの状況をみて
 当然、こゝ問題は、市が一応寄付を受けて管理して

やれば、事が済む問題で時効や——問題もいろいろ
法的にやればできると私はその見解に立っております。
現在、長須賀の共有地の問題にこういう例がありま
て、非常に手間取りまゐるんですが、かなりよく行
った例もありますから、あと行方不明の人々理由がは
つきりたてば、法律的にも解決できるんじゃないかという考
え方に立っております。もし、それができなくとも、異議
申し立てがあったら、率直に返してやうて、それで地元が解
決できるなら、それで差支えないと思ひます。それ
で、間、市がゴタゴタを管理してやる。困っている人を
救つてやると、こういう建前から、こゝニナセ号議案
は、ここで採択してやりたいとこゝうに考えております。
議長（石井潔君）他に御意見ございませんか。反対と賛
成の両意見がございますので、本案に對しまゝでは、採決

によつて決定したいと思ひます。採決は起立採決によつていたします。御賛成の方は御起立を願ひます。

(起立多数)

議長(石井潔君) 起立多数により本案は決定されました。議長(石井潔君) いばらく休憩いたします。

議長(石井潔君) 午後より出席議員数三十名、休憩前に引き続き会議を開きます。

(例月検査報告の際に三十四番議員の方から御質問ありまして二月末現在市税の収入額九千二十七万五千四百八十七円でございます。前年度繰越分より内訳がわかりましたので、お答えいたしたいと思ひます。前年分が七千八百七十七百三円、二小は

調定額に対するセ・六パーセントであります。滞納繰越
分が一千二百二十六万七千七百八十四円、収入歩合は、調
定額に対して、二七・七パーセント、合計額が九千二十七万
五千四百八十七円、収入歩合は、調定額に対して五八・
三%以上でございます。

議長（石井潔君）つづいて日程第五議案第二十号を上程い
たします。

（書記朗読）

（一）この土地はもと——旅館のあ

とでございます。

一時県が所有となりまして終戦後

県が職業補導所等に使われておつて、その建物が
建つておる敷地でございまして、現在では杉並高等
学校が海浜寮として夏季多数生徒やPTA等が
こゝへ参りまして授業をしておるやうでござい

この敷地につきまゝでは同校よりから救回

にわたります。市の方へ見えまして売却について交渉
をされたのでございます。学校側の希望といたしま

しては、坪一十円で五年賦払いで払い下げを受けたい。
こういう希望でございまして、いろいろ交渉いたしま
して、坪三千円で三年賦で売ることになり交渉がまと
まったのでございます。将来、同地より発展と観光

面からいたしまして、学校へ売りまして利用して
もらうということは非常によろしいと考えまして、坪三
千円で売却しようとするものでございます。

議長（石井潔君）本案に御質疑ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案
は討論省略可決決定されました。

議長（石井潔君）続いて日程第六議案第二十九号を上程いたします。

（書記朗読）

（議案二十九号について御説明申し上げます）
航空協会館山支部は館山市教育委員会よりさん下団体でございまして、会員約二十五名でグライダーを持って航空思想の普及と体育の向上という目的のために会を運営している協会でございますが、この会員たちが事業をやりますて、このグライダーを引張る自動車を購入したくてございまして、協会で自動車を持っておりますと、税負担が相当高いので、この会員だけでは維持して行くのに困難でございまして、その協会を育成して行く意味におきまして、その協会から教育委員会に寄付の申出がありまして、月二回、日曜日にそのグライダーの訓練を

やっておるわけでございしますが、その日だけを使わしてもら
うという条件で寄付を申し込めが、あつたわけでござい
ます。そういう意味で、収受したいというものでございま
す。

（「運転手はどうなる」と呼ぶ者あり） 運転手は向こ
うにいるものが運転します。協会員が運転します。

議長（石井潔君） 本案に対して御質疑ございせんか。

三十四番（鳴賀社作君） 問題は、運転手であると思ひますが、
運転手の一項も、そのほかへ加えておいた方がいいかと思ひま
すが、市の方でもうたつて、—— そうですね、市でも

って、運転手をもつというんですか。

市長（田村利男君） このライダー々、自動車御承知だと思
います。が、ライダーを飛ばすのに、自動車でワツと引ッ張
って、ライダーが飛ばぬ綱を放つ。こういうため、自動車

だそうでございまして、そのガソリン代、検査を受けるとき、修理費、全部を協会で持つと、市は、教育委員会といえども絶対使わなという条件です。それで契約をしたわけです。

三十四番（鳴貫壮作君）何うで使うかは、運転手があるからでございまして、市でもって、教育長で使おうとする場合に、運転手がいなから使えないということでは、自動車を送付してもらって、価値がない。

市長（田村利男君）それはちやうどいうなれば、ベーカーよりもっと悪くて、市で教育委員会であつと乗つたら、修理をこつちで受け持たなくちゃいけないという様なんで、教育委員会でも乗る必要がないけれども、指導、奨励のために管理してやると、こういうわけです。（笑声）

十三番（鈴木孝君）

市長(田村利男君) はっきりいえばそうです(笑声) 大型で
すから一百万円という税金と。

十三番(鈴木孝君)

市長(田村利男君) それも向こうでつける。

三十四番(鳴貫杜作君) もし、そう自動車は事故を起こした
場合はどうなるんでございますか。

市長(田村利男君) おそらく道で歩かせないということが原則で
あります。(笑声) 航空隊が広っぱでやるのが原則で
そこまで航空隊の中へ預けておくんじゃないかと思うんです
が、

三十四番(鳴貫杜作君) 市では使えないわけですね。

市長(田村利男君) 使わないというのが、市長の希望でそういう

ことでよかったらということ、話を進めたわけでございます。

三十番)

(自動車問題につきまゝて教育委員会へ聞いておりますので、一応つけ加えたいと思います。

ここに書いてありますように維持管理、その他一切の費用につき、市において負担しない。これを委員会で使う壊した場合、委員会で負担しなければならぬ。従ってこれは使えません。また運転手もありませんから、使わない。カーながらなぜ使えないものを市の方へ受け入れるのか、というところに問題があります。御承知のように、滑空協会の館山支部なるものが社教関係のさん下団体である。まあ、親が子をかばってやるという意味で税金逃れ、という人聞きが悪いんですが、実際やっておる人たちが、これを買うには相当高い金を出し合ったりして買ったらいんであります。さらにその上

税金がかかるんでは困るというんで、社教うさん下であるので、市長さんをお願いして委員会やうへ、こういう話でございますので、御了承願いたいと思います。

議長（石井潔君）他に御異議ございせんか。

十七番（鈴木市蔵君）市長さんは、どういふお考えでこの寄付を受け入れたいというふうな気持ちでおるんですか。この場合に館山市においては納税組合に――

――それと、こゝとは同じと思うんですが、そういう団体がこういった場合に受け入れる体制ができていますか。市長（田村利男君）そういうことにも考えまうが、こと体育ということだけ考えまうて、市営プールなり、市営テニスコートも各――にありますが、そういう――

ものもつくるといふ意思もありますので、――

――面におきまうて、体育奨励という一助にもな

ればという意味で受け入れると考えたわけでございます。

議長（石井潔君）他に御異議ございませんか。

二十四番（ ）

市長（田村利男君）

二十四番（萩生田七郎君）

（ ）自動車の問題ですが、御承知の通り、

館山は千葉県における青少年団のブライダーを中心とした訓練に非常に――が用いておるでありまして

千葉に本部があるんですが、館山市におる二十数名が県下その方面に――将来県本部

も館山に持ってこようじゃないかというくらい音気込み

を持つておるんで、そのライダーの訓練は御承知のとおり、いまスポーツとして青少年団に文部省が奨励してゐるんです。さらにこれを学校に持込めますれば、模型飛行機の訓練、こういうことで、青少年団に非常な話題になっておるんでありまして、遺憾ながら、この団体がまだ、先般問題になりましたように、移転的経費の部面に属する中で、各種の補助金というものはないんで、みな自費で一人三百円、五百円という会費を持寄って自分でやっておる団体でありまして、もっとライダーも手に入るし、さらにいままでは人間が引く張つてあげたのを一歩進んで自動車で引く張つてタコをあげるようにあげるといふことを連中が考えておるんでありまして、この際、市としましては、青少年体育向上の意味から申しまして、こういう団体を奨励したいと気が持てる多分にある。

るんでございまして――

・十七番（鈴木市蔵君）この議案では、こんど議案では、館山

市として市長さんとして――

問題がここに

あると思う。言わなくてもわかってると思うんですが、この

場合にこの項目のなかに――

使つてよろしいと

いうものが入れば結構だと思ふんですが、どういうものでござ

いまいしょうか。――

その点を聞いたことが

あります。

（

）ちつと意味がわからないんですが、

結局負担金というふうには教育委員会ではとりまして

市長さんの方に通したんでございしますが、この条件です

となんにも市の方へ負担をかけないということとで、そうい

うふうな解釈ならば、議会の方で審議も通ると解

釈したんですが、

十七番(鈴木市蔵君) わからん はつきり 答弁がわからん
よ。聞えません。

() 議案は市で負担 —

という意味で議会へ上程していただくように市長さんの方にお願ひしたわけなんです。ここにあります条件だと市の方う負担が全然かからないというふうにとれますので、議会に上程する必要ないんじゃないかというふうにも解釈できるんですが。

十七番(鈴木市蔵君) この寄付の問題について市会へ上程しなくてもよろしいという見解はどうであるか。その点をはっきりと答弁していただきたい。 —
上程しなくてもよろしいという根拠をはっきりと答弁していただきたい。

() 申し上げます。ただいま事務局の

方々答弁によつて、つい、そういうふうな答弁をいたしましたことは申しわけないでございしますが、委員会といたしましては、先ほども申し上げましたように私どもが掌握しております体育の奨励ということから、例えば、私どもの方に関係の各種団体にこれを育成して行く上に補助金、助成金、奨励金、いろいろなものも、かつては、あることがございしますけれども、こゝ滑空協会に今年度は、そういう補助、助成の方法がございませんで、止むを得ず、なんとか、これを育成して行きたいという考え方から、こゝ自動車委員会に受け入れて、せめても、一層、その団体の育成になるではないか、ということから、市当局へお願いいたしたようなことでございしますので、事務局から、ただいま、答弁いたしたことは、取消して御了承願いたいと思います。

十七番(鈴木市蔵君)

二十九番(黒川佐太郎君)ただいま教育長の御発言――

面では――

議会で審議して

いただきたい。さて、こんな問題ですが、やはりただ

いま秋生田さんが言われたとおり、趣旨は、まことに結構で
ございまして、なんか名目で出すように御配慮――

――事いやくも教育長がこういった――

――すべきものを我々は認めると言うことは――

――こゝは御賛成申し上げることができないという
考えでおります。

議長(石井潔君)他に御質疑ございせんか。

三十三番――

(御答弁)うなかに維持管理の点に

おいては、市には御迷惑をかけないとして――

税金問題ということと、前々質疑の中にも指摘さ

れまいだが、税金をカバーするためにこうやる。また一方人間が基礎を完成する体育協会、完成された各種団体と三ついったものは同一ケースうものは相当あると思ひます。その一端をとって申し上げるならば教育団体であるところより滑空協会が一応体育向上、その基礎をつくる団体である。基礎をつくって一かるうちに——農業協

同組合

——協同組合において

——これは

現在市において受け入れ体制を整えておられるか、いなか、そういった問題にも波及すると思ひうてあります。さらに本問題は市の補助が打切られから、これを政治的技術によつて——ということは一応私た

ち銘目としてはその精神たるや賛成せざるに得なくとも、現実の問題としては一応考慮を要する問題と思ひます。一かるによつて本問題はなお——

にあると解釈するものであります。

議長（石井潔君）——しばらく休憩いたします。

議長（石井潔君）再開いたします。

議長（石井潔君）申し上げます。議案第二十九号について
ただいま、当局より撤回の希望が出ておりますが、本
案を撤回することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本
案は撤回さしめらる。

議長（石井潔君）続いて日程第七議案第三十号、議案
第三十一号を一括上程いたします。

（書記朗読）

総務課長（完戸貴君）一般歳入歳出予算について順序

とて、歳末から御説明申し上げます。第二款の市役所費は十三万三千六百円、追加更正でございす。

こゝうち、恩給資金十三万三千六百円計上げてございます。
が、こゝは三月末——退職手当でございます。

三款消防費として九万二千七百円でございます。このうち
雑手当といたしまして、六万二千七百円計上いたしましてたが、
これは火災虫動手当が六万円ございます。

四月から二月末まで年間を通じまして二十九件の火災がございます。当初七十五回分各分団の出動回数をみたうでございます。この予算十五万円計上いたしましては、火災出動件数が多かったために今回不足分をございます。公務災害補償費としまして二万二千七百円を計上いたしました。こゝは――宮城の火災、時に、大町町の――

氏 9 氏が負傷いたしました。大体三十五

日間休養を要するといふので公務災害補償法に基きまして支給をしようとするものと、
 〃 際に一般
 の人で火災に援助した人でございしますが、
 氏は
 むはノ負傷いたしまして大体二十日間休養いたしましたので、こゝ補償費を出したい、こゝように思ふのでござい
 ます。

二十八節の——二十三万円のマスコット購入代金
 として計上いたしましては、富崎分団に配布する分
 でございまして、こゝは現在——
 予定でござ
 います。それから消防署費、職員手当に超過
 勤務手当として三万円を計上いたしましては、こゝは、
 火災や敬告戒等、出勤が多いために今回、干時間分
 を計上いたしたのでございします。

し上げます。河川港灣費といったしまして百十二万五千円
ニハ館山港修築費の分担金でございます。

前回一千二百五十万円の工費に対しまする二割であります
すが、前回百三十七万五千円計上してありますので、追加
として今回計上いたしまして、次に九項の災害
費ニハ昨年の十二月二十八日、二十九日、三十日の風によ
りまして館山さん橋、および北条さん橋の先端が流
失いたしましたので、運輸省の補助を受けまして、
本年度北条さん橋十四万九千円、館山さん橋九十万円の手
算が配布になることになりまして、追加として計上
いたしました。それから事務費として五万二千円は、この
工事完成のために必要なる事務費でございます。
以上御説明を終わります。

(一) 第七款 教育費について御説明

申し上げます。教育費について、十万七百万の追加でございますが、教育委員会費のうち、八、教育調査費、これは教育統計調査費として、県から補助が参りまいたので、その分に対する支出でございます。

四項、中学校費で二百万の追加でございますが、これはやはり、県補助として、第二中学校に運営補助金が参りまいたので、その分支出でございます。

なお、補助金が二百万で、市費二百万でございますが、市費の二百万は一般——から更正いたしました。

六項、幼稚園費で八百万の追加でございますが、これは現在城山にございます、館山幼稚園園舎の払下代金でございます。これを払い下げまして、下にあります、園舎に増築をするために払い下げをいたしたいというものでございます。以上でございます。

（八款について御説明申し上げます。）

四十二万六千円の追加を求めました。その内訳は生活保護費として四十二万、医療扶助費の追加分として計上いたしました。こゝは当初約一千二百万円の予定を組んでおったわけなんですけれども、現在で見込みからしますと――

約四十二万円不足になると、こういう見込みであります。四十二万円、そこから需用費として手数料六千円計上いたしました。こゝは医療扶助費の請求は、診療報酬支払――の手を経ても支払っておりますが、

この手数料が一件について三円、こういう規定でございますので、約二千件分として六千円を計上したわけでございます。よろしく願います。

・厚生課長（羽山房雄君）九款保健衛生費について御説明いたします。一万六千三百円の追加をお願いいたしました。

二項より予防接種費におきまして三万五千円、これは、
從來ありました必要の薬品代々不足分すなわち、ジフテリ
ヤ注射、反覆注射によります約五千円分の薬品代が
不足しまたうで——あります。

三項より伝染病予防費、十二節より燃料費で九千円、
お願いいたしましては、これは三輪車の燃料費のただ
いままでより不足分をお願いいたうであります。

五項を飛ばしまして七項火葬場費におきまして
同じく燃料費で一万円、これは火葬用の重油の不
足分を計上したものであります。以上、需用費の
財源に充てるため五項より結核予防費より十二節の
委託料、このレントゲン撮影委託料は該当者が少な
かったため残がありますので、そこから減額しまして
この財源に充てようとするものであります。

九項の環境衛生費、職員手当、一万六千三百円、これは
たゞいままで、ほかの扶養手当や勤務地手当から支出
ておりまして、不足を生じたもので、今回追加をお願い
たわけでございます。よろしくお願いいたします。

。農産統計課長（高木哲三君）一款の産業経済費について
御説明申し上げます。一万五千円の追加を――

これは九重、館山地区自作農創設貯蓄組合の補助
金でございますが、この財源は国庫補助として一万
五千円参ります。市を通過して支払うてあります。

――統計調査費三十五万追加でございますが、市
勢要覧を二冊つくるにあたりまして、市税要覧と商工
名鑑を一緒に出す関係上、市内の会社、商店より三十
五万円を寄付を受け入れたわけでございます。その不足
分を市税要覧と商工名鑑の印刷費でございます。

が、寄付が三十五万、市費で九万、——してございます。

それから、商工会議所より、——の予算でつく
くる予定になっております。

（十五款の諸支出金で今回更正前に
よるものが、——四千九百六十四円でございます。

公益質屋会計の繰り出しにおきまして、四十万計上いたしま
した。が、これは公益質屋で当初起債を百万円予定
をいたしたのでございしますが、館山市におきましては、三十
年度——質屋の起債が不可能になりました。

それに伴って、歳入が不足いたしましたため、三十年度も資金
繰りができなくなりまして、今回四十万円を繰り出し
たいと考えるのでございします。四項の市振興費に水

産学校——記念館の建設費、寄付金として

十九万一千四百九十九円を計上いたしてございしますが、これは

天皇陛下が水産学校へ行幸された際、記念館の建設割当金でございまして、旧市が三十万ありまして、このうち、すでに払ってあります。なお十五万円残っております。六村分が四万六千四百四十九円、未納になっておりますので、この分を計上いたしてございします。

六項の過年度支出金で昭和二十九年年度の失業対策事業費、国庫補助金の返納分として三十一万七千円強計上してございしますが、二十九年年度の失業事業を精算いたしました結果、このだけ返納するということがりまして、その必要経費を計上いたしてございします。九項の前年度繰上げ——金は四百八十万八千九百五十六円、更正減でございします。

これは五月におきまして大体二千五百八十万、繰り上げ流用を見込みまして処置いたしてございしますが、そ

の後二千九十九万で繰り上げが間に合いましたので、
今回その——更正しようとするものでございます。

つぎは歳入について御説明申し上げます。歳入の市税に
おきまして、更正をいたしてございますが、これは繰り
上げ流用分を更正に伴うものでございます。地方交
付税は普通地方交付税の最終決定額が三千三百
四十五万二千円と決定になりましたので、予算に計上分六
十万一千円多く計上してあるということになりましたので、こ
れを更正するものでございます。それから三款の臨
時——特別交付金、これは最終決定が五百六十
万一千円になりましたので、今回、三百八十三万一千円を
追加計上いたしてござります。

六款の国庫支出金のうち、北条さん橋、負担金と館山さ
ん橋負担金といたしまして、合計七十三万三千六百円

を計上してございますが、こゝは工事費の〇・六六七と事務費に對しまするの〇・〇五の国庫補助金でございます。三項の委託金として二十八万九千七百六十円は十月に執行いたしました国勢調査の委託金として今回交付されましたので、収納いたしましたのでございます。

七款の県支出金のうち、研究学校補助金として二万円を計上いたしましたが、こゝは二中の研究補助費でございます。

第八款の寄付金として、寄付金に十二万五千円を計上してございます。こゝは当初地元から五十万円寄付をするということになりまして三十七万五千円計上してございますが、今回その分として計上いたしましたのでございます。次は国有建物購入寄付金といたしまして四万円を計上いたしました。こゝは現在

館山幼稚園舎として使用しております。——物件

の購入代金、地え寄付金でございます。市勢要覧の寄付金として三十五万計上いたしました。先ほど産業課長から説明のごございましたとおり。今回市勢要覧を作成するにつきまして地え有志から寄付になるかでございます。

以上で歳入の説明を終ります。

厚生課長(羽山房雄君) 議案三十一号特別会計公益質屋の予算について御説明いたします。歳出について申し上げますと、貸付金で六十万の減額をいたしました。その理由といたしまして、歳入にあります起債百万円が許可が降りなかったために歳入に百万円の減をきたしまして先ほど一般会計から繰り入れの説明がありました四十万円の繰り入れをお願いしまして差額が六十万円の減額が予算を——

いたしました。よろしくお願いいたします。

三十四番

（歳入についてお伺いします。）

ただいま

課長が説明で地方交付税が三千三百

四十五万、最終決定をみたところ、こういうお話でありますか

先だって市長

ところによると、三千九百万

円あるというふうな発表がありましたが、いずかば是で
いずかば否であるか、その点御答弁願いたいと思います。

（

）市長が申し上げましたことがあるいは

違っておったことになりませんが、ここに最終決定として提

案いたしました。三千四百三十五万七千九十九

正というございます。おそらく市長さんは、そのとき

交付になりました臨時地方財政特別交付金と交ぜて

御発表になったと、そういうふうに考えます。

三十四番

（いや違えますよ）

市長の発表は、

三千九百万円あって、ことし当初予算よりも、七百万

月多い。そうほかに特別交付税が四百何万があつたんだと
いう発表のやうに私は記憶しておりますが、

（「休憩願います」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）——ばらく休憩します。

（これは当初一日四十人を使いまして道
路と公共空地の整備事業をはじめたんであります。が、
——におきまして公共空地が完成いたしました。
——そうしますと、——三十八で間に合つた。一日十人
の差ができました。——
——そう十人使わなかつた
分が入るこういうことになっていきます。

十四番（飯田義男君）

（その当時は三十人が限度でございます。
——それよりは使わなくともいいということになっております。

十四番(飯田義男)補助金はきたんですか。

() 補補助金は四十人、ワケを減らさることを恐まゝて補助金だけは。

十四番(飯田 義男君)

() 本年度は —

十八番(小沢太助君)館山市の災害復旧の — 災害復

旧は金額国庫負担と思ひますが、ここに予算を計上されたのは、どういふ関係になっておりますか。

() お答えいたします。これは運輸省で

検査を受けまゝて、国庫負担法によります。国庫の負担金でございますが、一般の災害工事は六割六分七厘が、国庫補助になっております。その工事費の五分が事

務費となつて交付になつてきたもので――

十八番(小沢太助君) こういう場合はなんですか――

() これは私有財産になつておりますんで――

――財産でございまして、市が企業者になつて市が國庫から直接補助を受けます。

議長(石井潔君) 他に御質疑ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 議案第三十号、第三十一号は御異議なしと認めます。よつて討論省略いたしまして確定いたしまして

議長(石井潔君) つづいて日程第八議案第十九号、館山市職

員給与条例一部改正について、本件は総務委員会に付託

いたしてありますので三番議員福岡保徳君に御報告願います。

官山古義

議長（石井潔君）認定第一号ないし第五号の決算報告に関する決算審査特別委員会委員長より報告を求めます。
二十三番議員 高橋文治君御登壇願います。

（高橋文治君登壇）

決算委員長（高橋文治君）決算審査特別委員会より経過はらびに結果を御報告申し上げます。

三月十二日の市会におきまして、わいわい九名は議長より決算審査特別委員に指名されましたので、当日、市会より付託されました昭和二十九年年度決算にかかる認定第一号ないし第五号の審査のために三月十六日に本委員会を開きました。全議案を一括上程の上、まず、総括的に審査を行い、次に一般会計と特別会計を二

分いたしました。逐一、抽出的に計算および証拠書類と対照する等、きわめて慎重に審査いたしましたのであり

ます。申し上げるまでもなく、本決算書につきまゝては、監査委員において長時間にわたって厳正適確なる監査の結果、意見が付されております。

かつまた、十二日より本会議におきましても、種々論議となつた問題点があります。で、本委員会、大体、こゝうした問題点に重点をおきまゝて審査が行われまゝの結果、第一点といひまゝて決算書の印刷に誤植がありまゝたが、決算につきまゝては、まったく誤まりが、正しく印刷、誤まりでございまゝたので、お手許へ配布の正誤表によりまゝて御了承のほどをお願い申します。

次に旧富崎村当時の道路用地買収費の問題でございすが、事件はすでに東京に移送さへまゝて目下東京検察庁において調査中、うことは御承知のとおりでございすが、市長に速やかに当時の村長と十分なる交渉をもつて、本件

解決を積極的に処理するよう要望いたしよろしく
あります。

以上によりまして認定第一号、ないし第五号の決算書
は本委員会は満場一致をもって認定いたした次第でござ
います。はなはだ簡単であります。これをもちて決算
審査特別委員会における審査の経過ならびに結果の御
報告を終りたいと思います。

市長（田村利男君）富崎地区におきます二十万円の問題
につきまゝて 氏とすぐる二十二日助役

および総務課長 ならびに 前富崎村助役長谷川所長
三人をして交渉させました顛末を助役より御報告
申し上げます。

助役（小出武男君）二十二日に市長から命令によりまして

前村長に私と総務課長と前々助役三人

で参りまして、いろいろ折衝して見たのでございますが、結局――君が考えといたしましては、以前公務員として公職にある立場で正当な議会が決議なり、いろいろ、そういう法的な処置をとってやったことであるので、その後、そういうことまで、個人として責任がないとはいえないけれども、公のものの責任については疑義があるもので、この点は、もう少し弁護士あたりに関いて考えたい。しかし、こちら側からも申し上げたのですが、徳義上の点については十分、これは自分も責任がある。こういう結論から申し上げたので、すが、そういうふうに考えておるようでございまして。

私どもといたしましては、議会が皆さんの御意向を十分に汲みまゐり、上り下り折衝でありましたために、とにかく市議会におきましても、なおまた私どもといたしましても、やはり当時過誤がある方法によつて取扱われた

ということが、結局現在うような問題を残しておるんであるから、この点については、やはり第三者に立っておる市長がやるよりも、やはりあなたが中心になってやってもらうわけは解決ができないんじゃないかという点を主張したのですけれども、たゞいま申しますような見解のもとにもう少し私が徳義上は大いに責任を感ずるが、議会の議決も通すし、現に私は村長でもない。仮にその後において本人から持ってきてても自分がいま受け取るわけにも行かないという、立場を考えたときにやはり市でひとつ大いに警察方面および本人、なおそれを取巻く人たち、こういうものによく督励を——やってもらうようにという意向があるものでありまして、私も——いまではいま申しますように、たゞ市におっつける。今、~~市~~公職にないから、おれは知らぬということでは絶対にいけないうて、

とにかく、この問題が解決するまでは、前村長としての責任、これを十分に自覚されて最後までひとつ、私の方もあるに相談にくるから、こういうことで別れてしまいたくありませんが、結論として、今まで——さんう考えておった点から一歩も出ないと、こういうような結果にこの間の第一回の話し合いでは、終わったような結果になって、この点は申しわけないと思います。すけれども、大体この間の会合の状況、簡単でございですが、御報告申し上げます。

○三十二番（望月暉作君）　ただいま、助役さんう説明で富崎の二十万円事件の問題につきましては、了承いたしました。この会期中に解決してほいというふうな要望でございまして、いかにしながら、解決ができないようであります。これは急速に解決してほいとかように要望いたします。

つぎに、特別委員長報告の決算委員長報告の件につきま

ては私は異議がございませぬ、賛成いたしますが、ちっと
事務当局にお伺いいたしますが、決算委員長があれは
昭和二十九年年度でございしますが、二年くらい前のごとであり
まして、この決算認定を上程するに予算を上程する
のと一緒にはしなけりやならないか、あるいは――

その他――

考えてみましても――

決算を大体二カ月間くらいでもって決算の報告を終つて
いるのでありますが、―― 遅いと

いうことはどうかと思ひますが、この点につきましても例えは、
昭和三十年年度の決算を三十一年度八月が九月ごろ、要す
るに三十二年にならないうちに決算を作成して上程できる
かどうか、この点をお伺いします。なお委員長報告とあり
決算については異議がございませぬ。

() いまう望月議員の件につきましても――

拾い上げらるゝて大体十月ごろ
に出たいという当局ヲ

・二十四番

（富崎の二十万円問題については私も市
長さんをお願いいたんでありますが、再度助役さんに御
質問申し上げます。――村長が、

合法的に処理いたさう御答弁なさうですが、私もは

そゝに對しては

先方はどういふ返事をいたか。

さんはあくまでも村長としてやうであるから、個人としては
好意的な協力はするが、一切は市でやってくれ、道義的、
政治的責任というものはやういふもんじやない。その点に
つきまゝて助役さんはどこまで法的な責任を負う。

道義的、政治的な責任を負うという言質を得たかどうか、最後にそう一言質を得たとすべし。

得たとすべし。

「そこまで話が進まないよ

うに答弁では拝察いたしますけれども、そこまでなぜ、

()

その順

序を若干、専決的な意味を含めた処置をいたすことが結果からみれば、今や災わい難を生んだということになるんですが、——

——さんとしてはいまして、あくまで、そういった土木委員会、県庁了承を得、議会、議決も得たことであるので、村長としてやったことについては、そととき状況から判断して正しく実行したものと、思ふという見解を堅持して、おるといふことに了解をいたしてあります。

この点を——さんは主張しておる現状でございまして、
従って私もはこの道義的責任ということをお話を聞か
んですが、カー事がそういうふうになっておつてもたま
にま専決なり、そういうた簡略な順序をかえてやるという
ことは完全に見通しがあるときにやるべき処置であ
つてそれが完全にならうという状況が残つたということとは、そ
う見通しにおいて欠陥があつたという意味じゃないかという
ことまで話したんですが、カーあくまでいま申しま
したような考え方を堅持しておる。従いまてこの問題に
ついて、中としてはこの実害が二十万円の金には、よしん
ばくねてもそういう考えであること、でこちからやっても
無駄だと思ひまて金額の面まではいいませんでしたか
なお、こんごにおいても、決して責任を道義的責任は
回避する意味じゃないということをおむしろ無理にそこま

でいわたしような状況であつたんです。非常に長いことそばにおる——

耳が聞こえない人ですが、そこへ行って村長さんがやしてもらえばいいんですが、今公職にない自分が村をそうしたこと、刺激することもしたくないからというふうなことで、いつてるところをみまします。やはり政治的には、そういう面で責任を回避しておる。こういうふうな考え、もうたゞ、この問題が解決するまではあくまであんたはやはり中心に立っておってもらわなければならぬ。私どもも、これから何回となくあなたを相手に交渉するからということ、一応会合は終つたんですが、

二十四番(荻生田七郎君)

(前回)

十万円こちらへ納めた

いとこいう話がございましてその後公式ではございせんが、聞いたところによりますと、その当時は、がおりまして、こゝが十万円出すということだったそうですが、その後家屋を建築したためにその金が出せなくなったというような関係で、
ついでこちらへ—— ということだそうでございまして、こちらの方と—— しても、なんとか、どちらからでもとりたい、こういうふうな——

・二十四番(萩生田七郎君)

答弁で非

常に私不満足です。要するに、~~印刷~~にしように交渉したり。

・議長(石井潔君)お諮りいたします。

認定第一号ないし

第五号の決算書を一括して討論省略、決算審査特

別委員会委員長の報告通り決定いたします。御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。よって委員長報告通り認定と決定いたします。

議長(石井潔君) 続いて日程第十議案第九号ないし第十四号の予算案に関する予算審査特別委員会委員長報告を求めます。六番小谷無違君。

九番(山口房治君) ちょっと委員長報告前に市長さんにお伺いしておきたい件があります。お伺いいたします。というのは、ちうと六村の合併当時の要望でありました診療所の建設の問題でございますが、それにつきまゝて当時我々村会議員でしたから、村会議員一同でもって、昨年予算のときに――

建設予算をひとつ組んでいただきたいということも要望いた
しまして、昨年は特別予算でもって計上されたので
ございますが、本年予算書をみますと、――

あるんでありまして、それはあるいは、国庫補助、起債
によるものも見通しかつかわいというところ、――

さて、――市長さん、それに応える腹案なり、
そういうお考えが、一応、――われわれの方、地
区の要望は、――

議長（石井潔君）九番議員に申し上げます。御質問の件につき
まゝでは、ただいま審査委員長、報告のあとに答弁を
していただきますが、御了承願います。六番議員小谷無違
君御登壇願います。

（小谷無違君登壇）

予算委員長（小谷無違君）予算審査特別委員会に付託さ

まいた議案第九号および第十四号にいたる昭和三十一年
 度一般会計および各特別会計に関する審査の結果
 ならびに結果について御報告申し上げます。

予算審査特別委員会は二十日および昨二十三日の両日
 午後二時より会議を招集をいたしまして付託を受け
 まいた全予算案を一括上程いたしまして毎日六時
 すぎまで慎重に審議を行ないました。

本年度の予算編成に対する市長の方針等につきまし
 ては本会議において連日発表なる質問、御意見等
 をみまいたとおりでございますが、本委員会といたしまし
 てもこの発言御意見等を尊重いたしまして、な
 おかつ参考といたしまして論議を進めて参ったの
 でございます。第一う論点といたしましては、移転
 的経費として一千八十万円を削除された本予算に

対する各款における重点的緊急要望の御意見がありまゝですが、時間的にも、市当局といたしましては、どこにこの移転的経費を生かすか、段階までには立ちいたらなかつたため、この点、委員会といたしましては、改めて年度開始後、可及的速やかに十分検討を加え、追加計上いたすむね、市長より確約を得たのでございます。移転的経費と称さるるものうちには、実質的には、事業費目が含まれていゝと思ひやるので、この点に關しては、市単独事業費目に切替えられ、追加更正において適切な処置を望むときに行政効果と経済効率とを考慮の上、議会に諮りまして、よりよき市政運営のため尽力していただくことを希望いたしまして、委員会といたしましては、一応本予算案を承認いたしたわけでございまして、まず、歳入につきましては、すでに本会議におきまして、みづから

まーたように移転的経費として歳入見込みより落し
 まーた一千八十万円に對しまーて、論議さしまーたが、本
 年度は、とくに地方財政促進特別措置法の適用
 を受けるが、受けまいか、岐路に立脚してゐる実情か
 ら鑑みまーて、赤字解消のため、万金を期し、滞納繰
 越額を減らしまーたので、歳入といひまーては、相当うちは
 見込み感があるのですが、この点、当局といひまーては、
 過去の実績に徹して、市税において約一千万円、地方支
 付税においては、前年度程度交付さるゝとすば、約七
 百万円、その他収入を含めて、約二千万円、程度が現在
 見込まれるので、その財源をもつて、赤字補填と移転的
 経費の復活費に流用したいむね、市長に固い決意の
 披歴がございまーた。委員会といひまーても、この赤字団体
 から一日も早く脱脚いたしたき観点からいひまーて、一応

了承—た次第でございます。

つぎに歳出におきまして、本予算に盛られた人件費は、
現員現給—↓かという諮問に対しまして、当局はこは
予算編成当時から現在まで、四名の退職者が分が計上
されておりますので、いずれ補充いたしたいむねの答弁があ
り、なお、収入役の給料は盛られてゐるけれども、収入役は
現在欠員であり、なおかつ、いまうところ置くことを考えて
いないと、市長の御答弁がありまして、こは減額されて
ゐる吏員の昇給見込額にふれたらどうかと、発言が
ありました。本問題も収入役を置かないとはつきり確
定すれば更正することにはなりません、昇給見込みへ
入れるということは今回できない。いずれ更正の機会もある
と思われ、そう、際にしたしたいむねの回答
がございまして、

消防関係におきまして現在、富崎分遣所は器具置場と詰所が別々でいるのでありますが、一朝事がある場合には現在より状態では十分なる機能を發揮することができ得ないのではないかという発言に對しまして、市といたしまして一緒にたい考えはありますが、経費の関係で新しく庁舎を建設することは不可能でありますので、本年度はできないが、いずれ心に当たりであるものがありますので、善処したい旨の答弁がありました。また消防署長を置かないとすれば、収入役のものと同様消防職員より昇給見込みに入してもらいたいむね、要望がありまして、たが、本件についても、いずれ機会をみまいて更正したいむねを御確答がありました。

つぎに、交際費は三十九年度より倍額になつてゐるが、緊縮財政より建前からして減額したらどうかという御意に

見に對しまして交際費につきまゝでは從來食糧費に
計上されてゐたもので、交際費的性格をもつものは、
報償費および負担金補助および交付金で支出されて
おた各種団体等に対する小額支出が相当数に上る
ので、移轉的経費制約の關係からこゝろを一括して
交際費に計上したため増額になつたといふ説明があり
ました。交際費に關連して各課長も市長助役一
体となつて予算があるからといつて、乱費せめよう、要
望があり、こゝに對し市としては食糧費においては昨
年より相当減額し、此冗費節約に努力するよう
心がけてゐるが、なお一層趣旨に添うよう自しゅくして
行く旨の答弁がありました。その他きわめて活発な発
言があり、質疑応答ならびに討論が行われ、了結
果、予算縮小に当たりましては、移轉的経費復活、

ならびに起債その他確保に格段の御努力を願うとともに、もつとも効果的な運用を強く要望いたし、委員会といたしましては、原案通り承認いたしまして、次でございします。最後に議案第十一号、特別会

計国民健康保険予算中、第一款、第一項、第一目一節、保険料につきまして、当局より賦課期日が一

八月一日でありますので、条例第二十四条によつて、当該年度より必要見込みは議会の議決を経て決定することになつてゐる關係、昨年度より一人当り給付費の実績を見込みましたので、現在付記にありますものと被保険者一人当り給付所要年額五百九十円、三万九千五百人の見込額に原案訂正前申し込みがありましたので、委員会といたしましては了承いたしました。以上をわめて、簡単ではありますが、予算審査特別

委員会に付託されました全議案の審査の経過ならびに結果の御報告を終わります。終りに一言、申し添えたいことは、私も本予算案はきわめてむずかしく、かつ新しい移転的経費というふうないまだかつて慣れない予算の審議に当りまして、きわめて不手際な委員長としての役を遂げさせていただいたわけで御不満の点もあるだろうと思ひますが、どうぞその点はまた後刻お伺いさせていただきます。

議長（石井潔君）申し上げます。議案第十一号特別会計国民健康保険の予算案中、歳入第一款の保険料の説明付記を原案訂正いたしたいという申出がございまして、この申し出を承認することに御異議ございませんか。（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって原案訂

正を認めました。

議長（石井潔君）お諮りいたします。先ほど予算審査特別委員長より報告に対して質疑がありまして、同伺いたします。

議長（石井潔君）しばらく休憩いたします。

市長（田村利男君）山口議員にお答えいたします。

豊房診療所の問題でございますが、昨年度は新築予算計上してあったわけでございまして、本年度も果ては保険課へ参りまして、建築補助につきましても再三折衝したわけでございますが、果てしきまては、新しく診療所を新設する場合は、いくらか補助費は考慮されるが、すでに既設の診療所に対しては、建築の補助は第二義的とい

いますか、まず見込みが絶対ないというのを再三いわ
まゝで、またそれに館山市の人口六万に對しまして医療設
備が一千百何人に對して医師一人という医療施設を分
布上からいってもそういう補助費を出す条件は与えら
れていないと、こういう果て保険課の答えがありまゝたゞ
そういう見込みがまずないものを、また去年のうちに予
算だけを組んでおくということも予算書編成上まず
いことになりますが、ことしは計上することを省いた
わけでございます。一かし市といたしましては本年
度三百ミリレントゲンと申しますとおわかりにくいわけ
でございます。かなり大病院の施設でも三百ミリな
まレントゲンが多数ある。館山市で三百ミリを持って
いるのは一つしかないわけでございます。そういう
なレントゲンもことし仕入れたいし、もう一つは
ら内容

充実というようなところへ重点をおきたいと思うわけでご
 ざいます。なおこれは具体的な話ではありませんが
 診療所がいよいよ建築が補助が見込みがなければ
 いま出張所が広いからあそこへ改築でもして明かる
 い診療所、病院をつくつたかどうかという一部の人の
 意見もありまして私も大変結構なことと存じますが
 事出張所を簡単に病院に塗替えるということは議会
 の協賛も経なければいけませんし、第一地元地区の希望も
 十分聞いた上でないともそういうことも早急にはできませ
 んので、一応その問題は改築するというような問題はあと
 の問題でなお、地区民とよく相談した上で考慮すると
 いうことでこの予算の編成に当たったわけでございます。
 以上。

九番(山口房治君)ただいま御説明でありますがこので見直し

がつかないというお話でございますが、

・市長(田村利男君)御趣旨よくわかりました。実はそう借りた
地所の問題でございますが、非常に困難な事情を無理
して借りたというような問題もあります。この点もいろいろ
事情もあることと存じます。で、市にうちに国民健康保
険組合運営委員会を聞いてその方々の御意見も十分
聞きまゝして善処したいと思ひます。でよろしく願ひし
ます。

・十六番(脇田順一君)予算の承認以前にひとつお尋ねをいたし
たいと思ひます。先ほど委員長より御報告のお言葉の
なかにもきわめて――予算であるから行政
的効力を挙げるようにかゝるいは効果的な運営を

市当局に望むとかいうお言葉があつたと思つてあります。すが、私、私見といたしまゝでも、こゝ予算が~~あつた~~認めらゝいて、そゝ遂行に当たらゝまゝでは、ただ單に予算の——問題だけではなしに、そゝ執行を司どる事務的の要素も相當に効力を擧げるが擧げないかのキーポイントになると思ひ従いまゝ、市長さんにおきまゝて、行政の機構を改革するとかあるいは配置転換とか、そゝうした職員、の面において、予算の効力を擧げるようになにか覺悟をもつておらゝますかどうか、その点を承りたいと思つてあります。

市長（田村利男君）行政改革、ということになりますと、非常に問題が大きくなりまゝ、市長といたしまゝでは、とくにそゝういふ言葉は用いませんで、重点的に各部課にエキスパートを配しまゝ、執行に当たらせるとともに、なほ、

ただいま

余りにも

とりまいたために

いく分超過勤務等多すぎるといふようなこともあります。近く五人ほど新人採用いたしまして、それぞより部課へ配置します。なお、こんご十分御趣旨に添いまいて努力をするつもりでございます。

○三番(福岡保徳君) 昭和三十一年度までの予算書は、市議会で審査していただいたんで、大変結構と思います。が、本年度はこれだけではやって行けないという答弁が当局からお話であるんで、それでは追加予算の予算書みたいなものをつくってそれに——やつて行くのか、それとも追加予算はそういう場合、その場でやつて行くのか、お伺いいたします。

○市長(田村利男君) 市長の考えとしましては、移転的経費と申しますか、今回問題となりまいた経費の大部分が

考え方につきまゝでは、こんご議会とも十分御協力を
お願いしまゝで、でき得れば、赤字再建特別対策委員会
というような仮称の委員会でも設置いたしまゝで、
まず、市長におきまゝで、原案を作成いたしまゝで、
その原案を作成いたしまゝたものを四月なり、五月な
りにその委員会というものができれば、そういうものを御相談
申し上げまゝで、その議を経た上に予算化して実行して
行きたいと、こういう考えをもっている次第でございます。
三番(福岡保徳君) 市長の考えている案というのは、追加予算
の予算案と考えるとよろしゅうございすか。

十二番(山本 昇君) 議案第九号ないし第十四号につきまゝで、
先ほど予算審査特別委員会、委員長より詳細に御
報告いただきまゝで、私も議会の気持を十分反映い
たしまゝで、そういうことを慎重に御審議願つて――

いろいろ今後運営の關係につきましても、さらに――

――設けない運営を――

私どもは、

こゝ予算審査特別委員長、委員長報告通り、これを承認したい。かように考ふる次第であります。

十四番(飯田義男君) その前に先ほど予算審査特別委員長への報告の要旨全文を私たちに印刷交付していただけませんか。

議長(石井潔君) 申し上げます。その件につきましては、委員会、委員の方々に御相談してからでないとはかたがい切れませんと思ひますが、うちほどではければ、そううに委員会、御相談を願うようにいたします。

議長(石井潔君) 他に御質疑ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議ないものと認めます。

・十四番(飯田義男君)

・議長(石井潔君)他に御意見ございませんか。

・ニナ七番(伊勢仙之助君)いよ十四番議員からいろいろこゝろ予算書に対する御不満そういう点についてわいわいもある程度——もうもあるんですが、

こゝろ予算書を——かあるいは修正するというような場合にもう少し、具体的にこゝろ種目をこゝろいうふうにしてもらいたいといって修正動議なりあるいは委員会動議なりを出していただいては討論をして行ったら議事が進みいいと思いますがいままで非常に抽象的でありまして——

はつきりとしていませんが、そういう点が修正をするような個所が数字的にはつきりと——

討論をして是であるか、非であるかという結論に達すれば採決

—— 諮りたいと思ひますが、

その点について市長さんは、

十四番(飯田義男君) 私は予算を特別審査委員会が報告いたしました内容を

五番()

十四番(飯田義男君) 予算特別審査委員会では、

—— まだ、ここで、市長さん御意見をそうまま直接聞いておりません。

市長(田村利男君) 予算委員会におきまして、市長が申し上げましたとおり、確約するものとございます。

議長（石井潔君）お諮りいたします。他に御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって議案第九号ないし第十四号予算案は委員長報告となり決定されました。

議長（石井潔君）本日より追加議案といたしまして議案第三十二号工事用材料購入について案件が送付されましたお諮りいたします。本議案を本日の日程に追加してただちに議題とするに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。日程は追加されました。議案第三十二号を上程いたします。

（書記朗読）

（議案三十二号について御説明申し上げます。
先ほど追加予算を承認いただきました館山さん橋の復旧
材料購入代でございます。

これは当地方におきまする金物店と契約購入ということに
いたしますというところ、東京よりも二三割高くつくのであ
りまして、とくに——商店を發定いたしました。

——長さ四メートル十五のものを三本、その
ほか鋼材といたしまして合計約十トンを購入することに
いたしますほか、工事は、——災害復旧工事

といたしまして、百四十七万六千円の工費でございます。
本年度は九十万円が予算を配布いたしましたので、三
十年度、三十一年度の二カ年間で完済することになっており
ます。以上、鋼材購入七十九万円、購入方をお願いし
た次第でございます。

十六番(脇田順一君)七十九万円に對して
随意契約の——
どういふわけでございまし
ようか。

(こゝは二月の末日になりまして運輸
省の方から本年度九十万円の工事をしろというふうな指
令がございまして、一応三月三十一日まで期間に購入
しなければならぬことになっております。それで当地方
で購入いたしますと、先ほど申し上げましたように資材が
間に合わないのと、高価につくので、直営をもって購入す
ると九十万円は材料費をもって購入いたすというふうな
ことになっております。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議ないものと認めます。よって討論
省略確定さしめました。

議長（石井潔君）以上をもって三月十日招集の第一回定例会
の議事全部を終りましたので、こゝをもって閉会をいたし
ます。長い間御審議をお願いしまして、ありがとうございます。
いまは、

